

後援会だより

ごあいさつ

未曾有の大震災、そして原発事故から1年半が過ぎようとしています。未だ日常とは言い難い状況下にある皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

平成24年度入学に関しては、事故の影響で志望学生数が減るのではないかと危惧される声もありましたが、本学類の一般入試では多数志願者が集まりました。被災地福島県で、災害復興に関わる活動を続けている福島大学にとって、多くの若者が集まって下さったことは、たいへん嬉しく、心強いことでもあります。

今回の震災・事故を契機に在学生も含めて、福島

共生システム理工学類後援会 役員一同

興に貢献したいと願う人もおれば、この価値観の転換期に、大学生である間にじっくり時間をかけ自分と向き合いたいと考える人もいるでしょう。新入学生には、大学入学を機に今までのイメージを払しょくしたいと思っている人もいるかもしれません。大学に入ってから、受験勉強では分からなかった勉学の楽しさに目覚めたという人もいるでしょう。学生の皆さんには、ここ福島大学での4年間で充実した時間で満たしてほしいと願っています。共生システム理工学類後援会では、皆さんを応援いたします。

福島大学共生システム理工学類長

石原 正



震災から1年半が経過しましたが、復旧がままならないご家族の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

前回の「後援会だより」でお伝えしましたように、共生システム理工学研究科前期(大学院修士課程)では、福島県が復興計画に掲げている「再生可能エネルギーの開発」に貢献する人材育成を目指し、産業技術総合研究所(産総研)と連携し、新たに「再生可能エネルギー分野」を設置しました。産総研の研究者14名を客員教員として迎え、「再生可能エネルギー特論」等、5科目の講義を土日の集中講義形式で開始した所です。再生可能エネルギーの開発拠点の県内創出の一助として、これらの講義を県内の企業の皆様に開放しております。今後、この分野の拡充について多面的に検討を進めたいと思っています。

本年度より、文部科学省の支援を受け、新しい研究プロジェクト「磐梯朝日遷移プロジェクト」が開始されました。このプロジェクトは、磐梯朝日国立公園の自然環境保全

に関する研究を通して、全国の自然公園にも適用可能な自然環境保全のための研究モデルを策定することを目的としております。新たに、このプロジェクトに参画する2名の特任助教が着任され、研究活動を開始しております。プロジェクトの詳細や最新の研究成果については「磐梯朝日遷移プロジェクト」のホームページをご覧ください。

昨年度実施した除染作業により、キャンパス内の放射線量はほとんどの場所で事故直後の10分の1以下になっております。しかし、依然として、放射線量が比較的高い場所が散見されます。近々、このような場所の除染作業が開始されます。

引き続き大震災からの復興に貢献する人材の育成に注力したいと考えております。後援会の皆様から一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一年生紹介

Aグループ

グループアドバイザー
筒井 雄二

間もなく最初のセメスターが終了します。受験という大きな仕事を終え、大学生としての新生活をスタートさせた激変の3か月余り。学生諸君にとってはとても短い時間を感じられたことと思います。

これから4年間の充実した学生生活を送る基礎として、人間関係の構築を促すことをAグループでは重視しました。そのために自由な雰囲気での面談を何度も実施しました。最初のうちは緊張気味だった互いのやり取りも、時間の経過とともにスムーズになってきました。大学生活をより一層充実したものにするために、遠慮なく教員に意見をもとめ、頼りにしてほしいと願っています。



Bグループ

グループアドバイザー
中山 明

懇親会も実施し皆さんと打ち解けたところで。前半はガイダンス中心で、他の時間は「グラフ理論への道」(ビッグス、その他著、一松信、その他訳、地人書館、1986)から「ケーニヒスベルクの橋の問題」を選び輪読も。皆さんは、観光コースを探すというクイズ的な問題がオイラー、ヒールホルツァーなど少なからぬ数学者を巻き込み、位相数学、多面体理論等にも波及し驚かれたのではないのでしょうか。



Cグループ

グループアドバイザー
塘 忠顕

Cグループは出身別では県内12名、茨城県4名、北海道、宮城県、新潟県、栃木県、岐阜県から1名ずつの総勢21名のクラスです。明るく元気な学生が多く、初顔合わせの場でもパフォーマンスあり、壇上での自己紹介あり、と驚かされました。

前期は理工学類の教員を知ってもらおうと、3人一组で興味のある分野の研究室訪問を行いましたので、「大学の研究室」の敷居が多少は低くなったと思います。

学生それぞれが自らの興味関心を深め、4年後に進路をしっかりと選択できるよう、準備と基礎固めの支援をしていきたいと考えています。



一年生紹介

Dグループ

グループアドバイザー
藤本 勝成

Dグループは、県内出身者12名(特に、福島市内の高校出身者が7名もいます)、山形、栃木が2名ずつ、岩手、宮城、新潟、茨城、中国が1名ずつの計21名です。入学当初は、顔つきも服装も休日の高校生(?)という雰囲気たっぷりででしたが、いつの間にか、大学生っぽくなってきています。不思議なものです。大学生の期間は人生の中で最も制約の少ない期間の1つです。様々な経験を経て、どんな顔つきで卒業していくのでしょうか?
楽しみです。



Eグループ

グループアドバイザー
横山 雅夫

Eグループは、出身地では、県内15名、宮城2名、神奈川・埼玉・茨城各1名、男女別では、男性16名、女性4名の20名の学生から成っています。

「教養演習I」では、各種ガイダンスのほか、「最適化」と「暗号化」という二つのテーマを取り扱いました。毎回、私がこれらについて解説し、その後、課題を出して、学生の皆さんに自ら考えていただくという形式の演習です。皆さん、とても意欲的に取り組んでいただいたので、楽しく演習を進めることができました。



Fグループ

グループアドバイザー
猪俣 慎二

Fグループは男子16名、女子4名で、出身は福島をはじめ、秋田、山形、新潟、栃木、茨城、東京、そして遠くベトナムです。アドバイザーともども人見知り期間が少々長めでしたが、演習を通して徐々にうちとけあい、各々の個性がかがやき始めたところです。ユニークな仲間たちの今後に乞うご期待!



一年生紹介

Gグループ

グループアドバイザー
三浦 一之

Gグループは県内出身者14名、青森、秋田、宮城、栃木、埼玉、中国各1名の20名で構成されています。前期の演習Iでは、数名ずつのグループに分かれてそれぞれの関心事について情報収集を行い、資料にまとめて発表する、といった活動を行いました。最初はおとなしい学生が多い印象でしたが、グループ活動やディスカッションを通して次第に打ち解けてきたようです。

後期の演習IIでは、各個人ごとに興味のあるテーマを設定して発表を行ってもらう予定です。各自個性的なテーマを設定して調べてくれるようですので、どのような発表が行われるか楽しみにしています。



Hグループ

グループアドバイザー
杉森 大助

最近の学生はとても優しく、保守的で、物わかりが良く、争いを好まないという印象を強く受けます。私の学生時代(25年前位)は、正反対の性質の学生がたくさんいた気がします。昨今は就職難や少子高齢化、国の財政状況など先行き不透明な社会事情で、学生も不安が一杯だと思いますが、若い大学生には、いろいろとチャレンジしてみしてほしいと思います。自分を変えるのはとても難しいと思いますが、何事にも食欲にチャレンジし、凶太い神経と繊細な観察力、課題抽出力を大いに磨いて、将来活躍してほしいというのが私の願いです。



Iグループ

グループアドバイザー
柴崎 直明

Iクラスには、入学直後から元気いっぱいの子4名と男子16名の計20名が所属しています。出身地は福島県が9名、宮城が3名、青森・山形・栃木が2名、愛知・岐阜が1名です。前期の教養演習では、キャンパス内の放射線量を測定したり理工学類の研究室訪問をしたりするなど独自の活動を行いました。

後期は、今後の勉強や研究に役に立つ実践的な演習を行って、これからの大学生活が充実したものになるようにしたいと思います。



「保護者のための就職セミナー」の開催について

(主催) 福島大学就職支援委員会

(後援) 福島大学人間発達文化学類後援会、福島大学行政政策学類後援会
福島大学経済経営学類後援会、福島大学共生システム理工学類後援会

テーマ:「大学生の就職事情と大学教育」 ＝“就活”の落とし穴と本学の就職支援について＝

大学生の就職事情は厳しくなつていわれています。しかし、実際はどうでしょうか？

内閣府をはじめ文部科学省や厚生労働省などからは、大学における職業教育や就職対策の強化などが打ち出されています。しかし、その取り組みの功罪もさまざまです。高校時代からの偏った進路指導の問題点やマスコミ情報なども検討する必要があります。

大学生の就職活動は、受験勉強の延長のようになってしまいました。大学の就職予備校化の問題も指摘されています。さらに、「就活」の早期化や就職支援産業の隆盛は、大学教育そのものを崩壊させているのではないかともいわれています。

このような状況の中で、いまどきの学生の就活模様について本学学生の様子を紹介いたします。また本学の就職支援やキャリア教育の取り組みについて説明いたします。

参加を希望される方は、参加申込書にご記入の上、FAX・郵送・メール等で、10月19日(金)まで就職支援室あてお送りくださいますようお願いいたします。お送り頂いた参加申込書により、そのままセミナーにご参加いただけます。そのため、こちらからはお申込みの結果についてご連絡はいたしませんので悪しからずご了承ください。

なお、当日は金谷川のキャンパスで「大学祭」も実施されております。併せて是非ご覧いただけますようご案内いたします。

記

1. 開催日時 平成24年11月3日(土) 13時～14時30分 [参加無料]
2. 開催場所 福島大学共通講義棟 L-4教室 (福島市金谷川1番地)
3. 参加対象 福島大学の在学生の保護者の皆様
4. 開催内容 ①挨拶 工藤 孝幾 副学長
②講演 五十嵐 敦 キャリア研究部門教授
③質疑応答

[参 考]

《五十嵐敦氏のプロフィール》

1957年 福島県喜多方市生まれ

日本キャリア教育学会、産業カウンセリング学会、産業ストレス学会等に所属。

平成22年度から国大協教育・研究小委員会委員、文科省就職問題懇談会委員。内閣府若者雇用戦略WGメンバー。

専門は職業心理学、キャリア発達心理学、産業安全衛生。

【申込先】福島大学学生課就職支援室長 齋藤 正廣
〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地
TEL 024-548-8108 FAX 024-548-8355
E-MAIL: shushoku@adb.fukushima-u.ac.jp

平成23年度 卒業生・修了生の進路状況について

共生システム理工学類就職支援委員会



平成23年3月の東日本大震災の影響で就職率が90%未満に落ち込んだ平成22年度の就職状況と比較しますと、23年度の就職状況は震災前に近い状態にまで何とか回復しました。とは言え、福島県が小中学校の教員採用試験を取り止めるなど、23年度も多くの学生が困難な状況の中での就職活動を余儀なくされました。

1.平成23年度の進路状況

表1に卒業生の進路・就職状況を示しました。23年度の民間企業の内訳は、製造業(21名)、情報通信業(12名)、サービス業(11名)、卸・小売業(10名)、金融業(7名)、建設業(6名)、運輸業(3名)などとなっています。就職率は93.9%で、震災前である21年度の97.6%には及びませんが、22年度の86.9%からは回復しました。これは企業側による採用の一時延期、被災地付近での試験会場設置など、応募学生への配慮がなされたことに加えて、被災地の学生を対象とする特別採用枠の設定や採用活動を初めて東北地方まで拡大させた企業の増加など、これまでになかった求人活動の展開も一因と思われます。

福島県が小中学校の教員採用試験を取り止めたにもかかわらず、正式採用された教員は6名と22年度と同数だったのは、福島県出身者をはじめとする教員志望者が頑張った結果です。地方公務員を志望する傾向はますます高まりましたが、公務員浪人の数は22年度と比較するとほぼ半減となりました。

表1 卒業生の進路・就職状況 (単位:人)

	21年度	22年度	23年度
卒業生	144	199	191
就職者(a)	83	119	123
(内訳)			
民間企業等	58	80	78
公務員	国家	9	5
	地方	10	23
教員	3	8	7
自営業等	3	3	3
進学者等	46	41	45
その他	13	39	23
(内訳)			
未定(b)	2	18	8
公務員等希望者	11	19	10
その他	0	2	5
就職率	97.6%	86.9%	93.9%

*「教員」の中には期限付き教員を含む

* 就職率は就職者(a)の数を就職希望者(a+b)の数で割ったものである

表2には修了生の進路・就職状況を示しました。実質的に最初の修了生を送り出した22年度は震災の影響がありつつも健闘しましたが(就職率83.3%)、23年度は学類生とは逆に就職率73.2%と厳しい結果になりました。原因の一つは就職できなかった就職希望留學生が増えたことのように見えます。今後は研究科の留學生に対する就職支援を充実させる必要があると見られます。

表2 修了生の進路・就職状況 (単位:人)

	21年度	22年度	23年度
卒業者	20 (2)	51 (6)	42 (7)
就職者(a)	4	33 (2)	30
(内訳)			
民間企業等	2	30 (2)	24
公務員			
国家	0	0	0
地方	0	1	1
教員	2	2	2
自営業等	0	0	3
進学者等	3 (1)	7 (2)	3 (1)
その他	13 (1)	11 (2)	9 (6)
(内訳)			
未定(b)	1	7	8 (3)
公務員等希望者	0	0	1
有職者	12	4 (1)	0
その他	0 (1)	0 (1)	0 (3)
就職率	80.0%	83.3%	73.2%

*「教員」の中には期限付き教員を含む

* 就職率は就職者(a)の数を就職希望者(a+b)の数で割ったものである

* ()内は留学生の数で外数

2.平成24年度の就職活動状況

今年度から学類生及び大学院生の卒業・修了後の進路状況に関する情報収集方法が変更され、学生本人がLive Campusの就職システムに自分の進路状況をweb登録する方法になりました。そのため、今年度の内定状況等の調査は就職支援室に協力して頂き、今後行う予定です。なお、福島県の小中学校の教員採用試験が実施されたり、福島県復興計画と関わって福島県職員の採用予定者数が増えたりするなど、明るい材料もありますが、就職戦線はまだまだ厳しい状況が続いています。

3.就職支援の取組み

このような厳しい状況の中、大学としても学生・大学院生に対する就職支援のための取組みを可能な限り充実させていきます。24年度も以下のような就職支援策を実施しています。

- 就職活動に関わる交通費支援
- 東京と仙台における合同企業説明会への無料送迎バスの運行
- 福島県内における企業めぐりバスツアー開催
- 学生への就職情報提供として「就職支援室通信」の発行
- 就職情報に関する大学のホームページ「就職の広場」のさらなる充実とLiveCampusの就職システム(求人票検索、ガイダンス情報、進路登録など)導入
- 大学主催の合同企業説明会開催(春と秋)

年間30回以上の各種就職ガイダンスの開催、専門のキャリア・カウンセラーによる相談対応、学内企業セミナーの開催、就職が決まらないままに卒業・修了した学生への情報提供や支援、大学院生の就職活動に対する大学院実践教育推進センターの特任教授らによる相談対応や指導なども23年度に引き続き実施しています。

早くから卒業後の進路を意識し、就職情報誌やインターネットの就職情報サイトばかりに頼らず、大学が提供する就職に関する情報や支援策も積極的に活用しながらよりよい進路を確定させて欲しいと願っています。



学生生活支援便り

共生システム理工学類 学生生活委員会

【学生交流会と学生表彰】

学生交流会が5月23日(水)ランチ時に、学生会館で開催されました。これは、学生の実行委員会が中心となって種々のレクリエーション・イベントを企画して行うもので、食べ物・おやつ・飲み物を立食パーティのかたちで提供しています。交流会を通じ、学生どうし、あるいは教員と学生が親交を深めることが目的となっております。



5月23日 学生交流会

紙面を拝借いたしまして、後援会の皆さまに理工学類の学生の動向、学生生活上の注意などをお知らせしております。

交流会の冒頭では、昨年度の学業成績優秀者の表彰が行われました。例年、各学年のGPA上位約15名に対し、賞状と図書カードを贈呈しております。当日は4年生の代表者が壇上にて学類長より表彰されました。交流会や学生表彰には、後援会からの多大なるご支援を頂いております。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。



5月23日 成績優秀者表彰



8月4日 サイエンス屋台村



8月5日 オープンキャンパス

【学生の飲酒に関する注意】

最近、日本各地で学生の飲酒に関連する不祥事が相次いでマスコミ等で取り上げられる事態が続いています。福島大学でも、決して他人ごとではありません。インターネットやSNSを通じた不用意で不適切な書き込みが、思わぬ広がりをもたせる事態となりえます。一気飲みや飲酒の強要は、時に生命の危険さえ伴うものであることを、よく理解しなければなりません。飲酒にまつわるこうした問題が、皆

さんの学生生活、かけがえのない未来を汚してしまうことは絶対に避けなければなりません。未成年の飲酒はもちろんのこと、不適切な飲酒や、酔った勢いで他者に迷惑をかけるといった行為は、絶対にしないでください。皆さんの良識に期待するとともに、飲酒に関して節度ある行動をとることを願います。

平成23年度成績優秀者表彰

1年

青野 真依
成田 裕幸
井上 浩太
阿部 周平
宮崎 美妃
小川 麻美
中村 誠瀾
鹿野 雄大
八木沼寛子
今野 浩道
渡邊 健作
市川 璃美
小関 真悟
佐藤ひかる
渡邊 愛

2年

八巻 志帆
小磯 将広
佐藤 優輝
野田真優子
吉家 芳明
橋本 光広
神野 成美
オウイホウ
三浦 望
和知 眞子
堀越 健太
新巻 有香
藤澤 昭仁
金子 翔平
石澤 直樹
海和 洵

3年

鳥居 洋介
酒井 貴紘
赤沼 勇人
星 貴文
杉山 拓也
佐藤由佳莉
春山 直人
佐藤 拓磨
村上 真哉
龍崎 尚真
奥山 杏子
塩谷 昌之
田中 幸宏
小澤 直記
大塚 俊幸
松尾 晴児

4年

小野結夏子
千葉 史人
斉藤こずえ
安齋 洋行
遠藤 美佳
三浦 裕文
内村 和彦
志鎌 広也
佐久間健太
植木 智也
河野 哲成
安濃 瞳
藤枝 涼
ゴ シンキ
岩田 成弘

平成23年度学類長賞表彰

受賞団体 AG+商品開発プロジェクト
渡部 深智、佐藤 優友、佐瀬 春香



Congratulations!

大学へのご相談

学生時代はさまざまな問題や悩みを抱えることもあるでしょう。学業、就職、人間関係…etc. 友だちどうしの関係だけでなく、できればグループアドバイザーや指導教員にも問題を共有させてください。教員は誰でも、遠慮なく相談に来てくれることを心より願っています。

ここからは、相談内容に応じた窓口をご紹介します。学生生活に関わるさまざまな問題や心配事は、学生支援グループが窓口となって、相談を受け付けています。授業料免除や奨学金の問題、その他生活に関する相談など、困ったこと、各種トラブルが生じたときには是非ご相談ください。対人関係やメンタルの問題については、学生相談室に専門のスタッフが常駐しています。相談者のプライバシーは必ず守られます。問題が

悪化する前に、早めに対処することが望ましいです。ご家族の皆さまとの連携もたいへん重要なポイントですので、ご心配な場合はお気軽にご相談ください。

また、福島大学では、原子力発電所の事故に伴う放射線の影響に関する学生の疑問や悩みごとに対応するため、福島大学放射線相談窓口を設置しております。ポケットサーベイメータ及び電子ポケット線量計の学生・教職員への貸し出しを行っておりますので、こちらもお気軽にご利用ください。

連絡先

学生支援グループ TEL024-548-7681
学生相談室 TEL024-548-5156
放射線相談 TEL024-548-5336

平成23年度共生システム理工学類後援会会計決算報告書

平成23年度
共生システム理工学類後援会
会計決算報告

収入内訳				(単位円)
科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰越金	7,298,581	7,298,581	0	学生活動助成(36万円×6年)、福利厚生費(18万円×6年)、通信費(3万4百円×6年)等を含む
会費	3,600,000	3,630,000	30,000	20,000円×新入生176人+10,000円×編入生11人
雑収入	0	1,033		利息
収入合計	10,898,581	10,929,614	30,000	

支出内訳				(単位円)
科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
総会費	5,000	0	△ 5,000	資料印刷費等
役員会費	130,000	90,000	△ 40,000	理事会会場費、交通費、資料費
事務局運営費	600,000	600,000	0	事務職員給与:50,000/月
事務費	45,000	81,878	36,878	通信費、消耗品費、事務局備品等
小計	780,000	771,878	△ 8,122	
学生活動助成費	600,000	782,250	182,250	学生の課外活動支援費、表彰制度
就職指導対策費	300,000	12,400	△ 287,600	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
後援会報費	300,000	153,790	△ 146,210	会報年2回発行 印刷費・発送費
福利厚生費	720,000	510,000	△ 210,000	アドバイザーグループ助成 研究室配属学生補助:1,000×180×4
学類運営助成費	200,000	56,880	△ 143,120	理工系学部会長費他学類の対外交渉・応接に要する経費
教育研究助成費	700,000	697,972	△ 2,028	実地指導・実習指導助成、資格試験受験助成:3,000×100、学会参加費、研究交流会費、海外演習助成:30万
小計	2,820,000	2,213,292	△ 606,708	
予備費	0	1,479,495	1,479,495	学籍異動に伴う返金、義援金を含む
支出合計	3,600,000	4,464,665	864,665	

収入合計-支出合計= 6464949 円は平成24年度へ繰越

平成24年度
共生システム理工学類後援会
会計予算

収入内訳				(単位円)
科目	本年度予算額	H23年度予算額	比較増減額	備考
繰越金	6,464,949	7,298,581	△ 833,632	
会費	3,600,000	3,600,000	0	5,000×180名×4学年
雑収入	0	0		預金利息等
収入合計	10,064,949	10,898,581	△ 833,632	

支出内訳				(単位円)
科目	本年度予算額	H23年度予算額	比較増減額	備考
総会費	5,000	5,000	0	資料印刷費等
役員会費	130,000	130,000	0	理事会会場費、交通費、資料費
事務局運営費	600,000	600,000	0	事務職員給与:50,000/月
事務費	45,000	45,000	0	通信費、消耗品費、事務局備品等
小計	780,000	780,000	0	
学生活動助成費	700,000	600,000	100,000	学生の課外活動支援費、表彰制度:5,000円×45人
就職指導対策費	100,000	300,000	△ 200,000	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
後援会報費	300,000	300,000	0	会報年2回発行 発送費を含む
福利厚生費	720,000	720,000	0	教養演習グループ・研究室配属学生助成:1,000円×180名×4年
学類運営助成費	200,000	200,000	0	理工系学部会長費他学類の対外交渉・応接に要する経費
教育研究助成費	800,000	700,000	100,000	実地指導・実習指導助成、資格試験受験助成:3,000円×150人、学会参加費 研究交流会費、海外演習助成
小計	2,820,000	2,820,000	0	
支出合計	3,600,000	3,600,000	0	
予備費(繰越金)	6,464,949			学籍異動にともなう返金 学生活動助成:36万円×(1年+2年+3年) 福利厚生費(18万円×6年) 通信費(3万4百円×6年)
合計	10,064,949			

平成24年度 福島大学共生システム理工学類 後援会役員

会長 丹治 峯人 / 副会長 小野寺京子 / 副会長 押切竜一郎 / 監査 菅野 浩子
 理事 加藤 孝裕 / 理事 神野 幹彦 / 理事 高橋 清典 / 理事 小泉 昌子
 理事 阪本 松男 / 理事 野田 博正 / 理事 計良 浩

福大祭へ
お越しください!

第48回 福大祭 本祭(一般公開)

●場所:福島大学 ●日時:平成24年11月3日(土)~4日(日)

ステージ発表・模擬店・子ども向け企画・学外展示・お笑いステージなどを企画しています。

ご意見・ご要望は下記 共生システム理工学類後援会 まで

事務局 〒960-1296 福島市金谷川1 福島大学理工学群共生システム理工学類内 TEL&FAX 024-548-8176

学類のHPで様々な教育・研究活動をご覧ください。 <http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/>